

# 大阪府小児救急電話相談 2022年(令和4年)度 年間集計のまとめ

## ☆件数と受付時間帯の経年推移

所在	大阪府医師会			上本町事務所					
	準夜・深夜2回線			準夜3回線・深夜2回線		準夜4回線・深夜2回線			
通常回線数*	17年度	20年度	24年度	25年度	28年度	31・R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	2005年度	2008年度	2012年度	2013年度	2016年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
20～24時 (R2年度19～24時)	17,903	25,279	25,343	26,693	35,731	42,191	32,197	45,143	52,359
0～8時	7,376	12,128	12,321	13,033	17,187	18,738	11,577	16,222	20,716
不明	512	223	16	434	0	0	0	0	0
合計	25,791	37,630	37,680	40,160	52,918	60,929	43,774	61,365	73,075
20～24時	69.4%	67.2%	67.3%	66.5%	67.5%	69.2%	73.6%	73.6%	71.7%
0～8時	28.6%	32.2%	32.7%	32.5%	32.5%	30.8%	26.4%	26.4%	28.3%
不明	2.0%	0.6%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

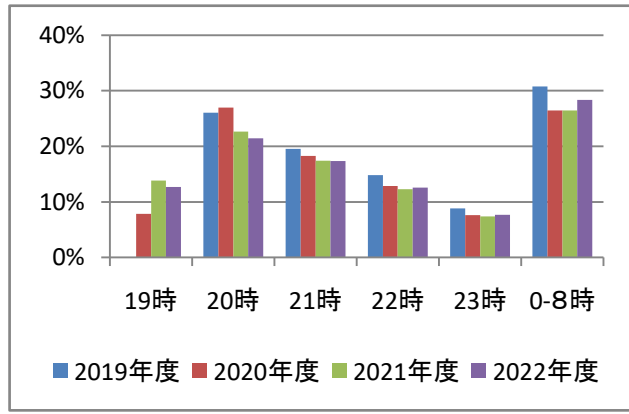
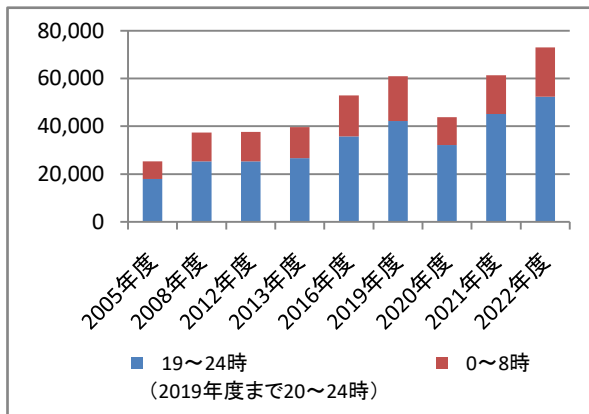


図1. 相談件数準夜・深夜帯の推移

図2. 19時台開始後、準夜時間帯と深夜帯の比率の比較

\* 相談件数は昨年度の1.2倍と昨年度を更新し、今までで最も多く、7万件を超えた。

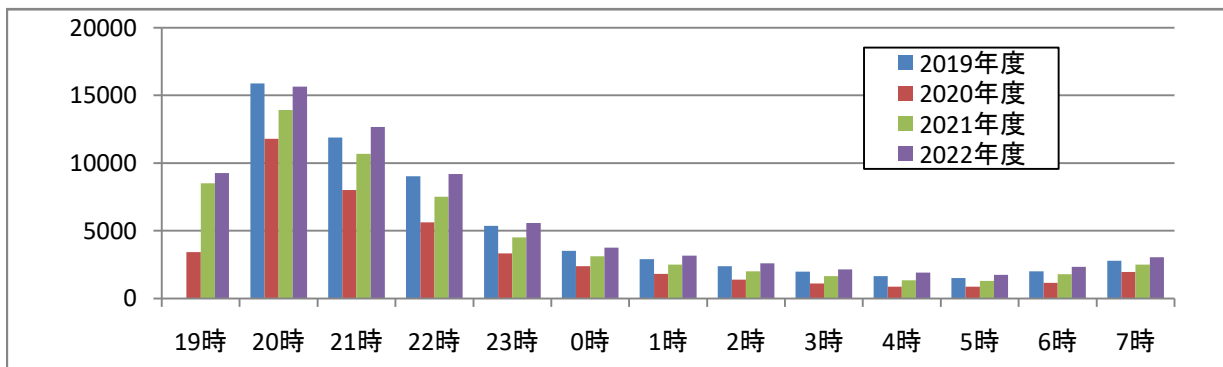


図3. 19時台開始後、時間帯別相談件数の比較

\* 2020年10月から19時台2回線を開始した。時間帯別の比率は2021年度と2022年度でほぼ同じだが、2022年度はやや0-8時の深夜帯が多かった。件数の比較では、2022年度の増加をうけて、どの時間帯でも2022年度の件数が最も多かった。

## ☆相談件数の月別推移と過去の比較(図4)

#8000開始当初の2007年度は冬に大きなピークがあるパターンであった。2016年度から4月～7月に相談が増え、その後2019年度まで4月～7月に冬期と同様またはそれを超える相談件数となった。2020年度は新型コロナウイルス(COVID-19)感染症流行の影響で小児の医療機関受診患者数が激減し、原因はCOVID-19以外の感染症の流行がなかったとされている。#8000の相談件数も少なく年間を通じて顕著なピークは認められなかった。2021年度は4-7月、12-1月にピークを認め、2019年度(図には示さず)と同様のパターンであった。2022年度はCOVID-19の小児患者が激増した第7波の時期に著明な件数増加があった。7月のピーク以外でも第6波やその他の感染症の流行を受け、全体に件数が多かった。

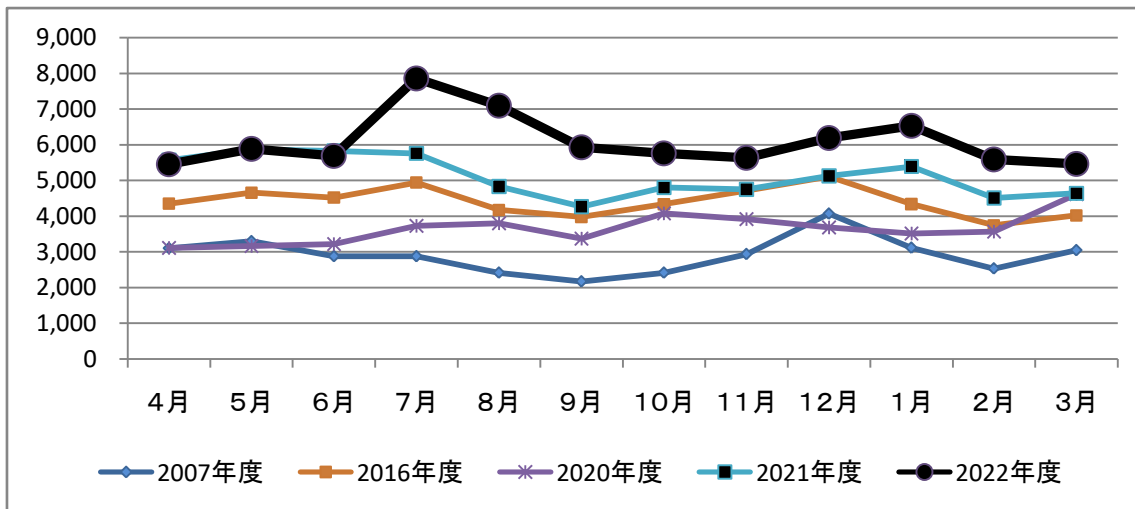


図4. 月別相談件数の年度別比較

☆相談者別(2013年度以後は複数選択)

相談者	2022年度 件数	2005年度 %	2018年度 %	2019年度 %	2020年度 %	2021年度 %	2022年度 %
母	59,484	82.2%	84.1%	83.7%	81.8%	81.4%	81.4%
父	12,563	12.0%	14.5%	15.0%	16.7%	17.3%	17.2%
両親	400		0.4%	0.4%	0.5%	0.5%	0.5%
祖母	263	0.8%	0.3%	0.4%	0.3%	0.3%	0.4%
その他	172	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
不明	193	4.7%	0.5%	0.4%	0.4%	0.4%	0.3%

\* 母親がわずかずつ減少し、父親の比率は徐々に増加していたが、昨年度は前年度と同じであった。

☆年齢

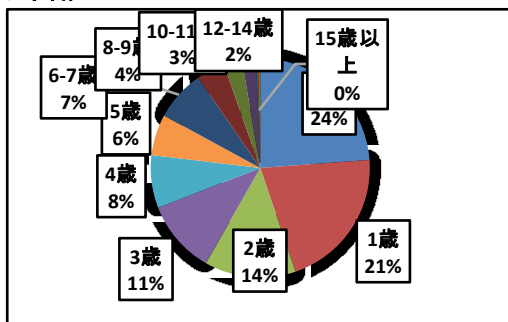


図5. 相談の年齢別割合

☆年齢構成の昨年度との比較

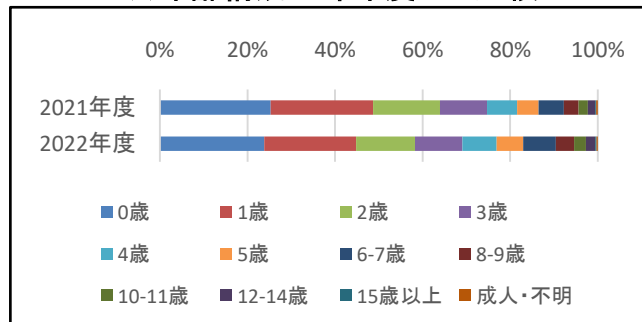


図6. 相談の年齢別割合の昨年度との比較

\* 例年同様0歳児が最も多い。開始以来、3歳以下が約4分の3を占めていたが、2022年度は4歳以上の占める割合が増加した。COVID-19感染流行の影響と考えられた(図5,6)。

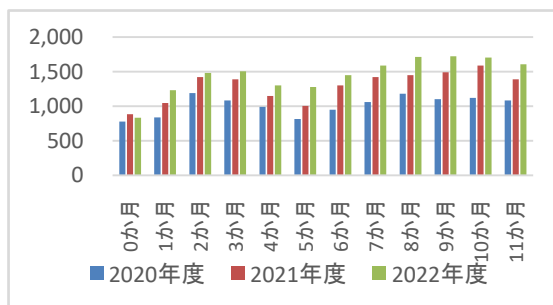


図7. 0歳児の月齢別件数と3年間の比較

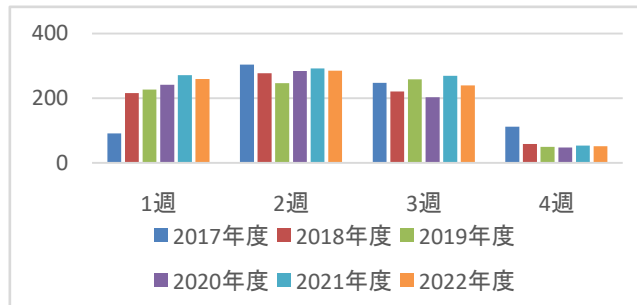


図8. 0か月児の週齢別件数と年度別の比較

☆0歳児と0か月児について

\* 0歳児の月齢別件数は全体として2021年度より多かったが、0か月児の相談件数は横ばいであった。  
\* 0か月児の週齢は、2017年までは生後2週が最も多かったが、2018年度から第1週が増加し、2022年度は年間259件(0.7件/日)、週ごとの変化は昨年度とほぼ同様であった。

## ☆症状別 (複数選択)

相談の症状	主な症状		症状複数選択		2020年度	2021年度
	件数	%	件数	%	%	%
発熱	26,310	36.0%	31,336	42.9%	30.0%	35.6%
咳	4,413	6.0%	10,048	13.8%	6.9%	11.6%
鼻汁・鼻閉	1,528	2.1%	5,609	7.7%	5.6%	7.2%
呼吸困難・喘鳴	981	1.3%	2,489	3.4%	2.3%	2.9%
嘔吐	7,106	9.7%	12,307	16.8%	12.3%	17.3%
下痢	1,315	1.8%	2,760	3.8%	2.7%	3.9%
腹痛	2,387	3.3%	3,765	5.2%	5.1%	5.2%
頭部打撲	4,828	6.6%	5,490	7.5%	10.3%	8.9%
外傷	2,579	3.5%	3,445	4.7%	6.2%	5.6%
手足の傷み	1,828	2.5%	2,258	3.1%	4.2%	3.6%
熱傷	455	0.6%	469	0.6%	1.1%	0.8%
けいれん	439	0.6%	1,170	1.6%	1.0%	1.3%
頭痛	711	1.0%	1,901	2.6%	2.1%	2.1%
耳痛	1,273	1.7%	1,620	2.2%	1.5%	1.9%
鼻出血	505	0.7%	737	1.0%	1.3%	1.0%
皮膚症状	2,964	4.1%	4,004	5.5%	7.8%	6.4%
泣き止まない	1,241	1.7%	2,011	2.8%	4.3%	3.5%
薬剤	751	1.0%	5,039	6.9%	7.0%	6.3%
誤飲	2,345	3.2%	2,769	3.8%	5.1%	4.3%
予防接種	1,037	1.4%	1,617	2.2%	3.7%	3.0%
育児相談	450	0.6%	978	1.3%	2.0%	1.6%
その他	7,167	9.8%	11,629	15.9%	22.0%	19.6%
不明	462	0.6%	462	0.6%	0.7%	0.5%
合計	73,075	100.0%	113,913	155.9%	145.3%	154.3%

\* 昨年度は発熱の相談が多く、7~8月のCOVID-19感染流行の影響を反映した結果と考えられた。

\* 感染症の少なかった2020年度と比較し、頭部打撲・外傷等外因系の相談件数は横ばいで、比率は低下した。

\* 症状別月別推移では、発熱は7月と1月にピークが、咳は7月に、嘔吐は1月にピークがあった。けいれんの相談は、発熱と同様のパターンであった。

\* 発熱は#8000開始後ずっと図10の2018・2019年度のペースの季節変動であった。2020年度と2022年度のズレは顕著であった。

## ☆主な症状の月別推移

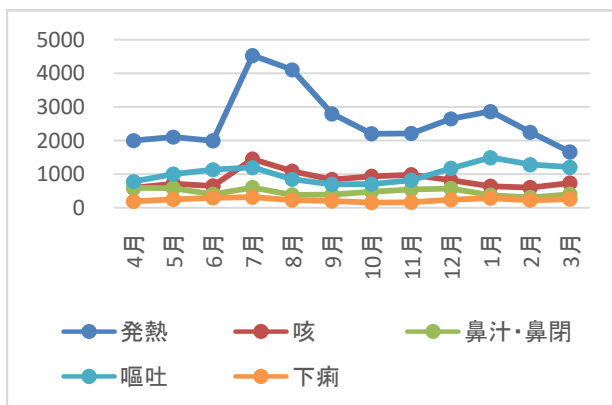


図9. 主な症状の月別推移

## ☆発熱の月別推移 年度の比較

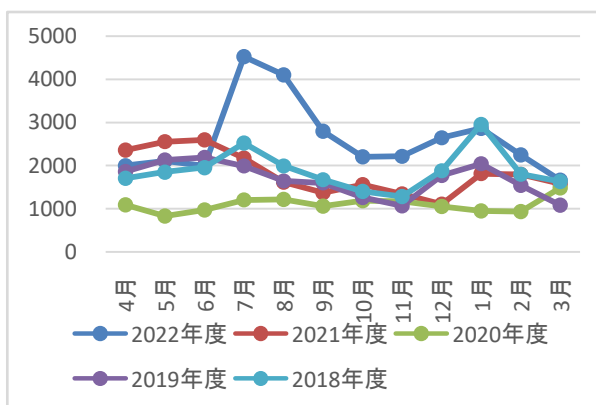


図10. 発熱の月別推移と年度比較

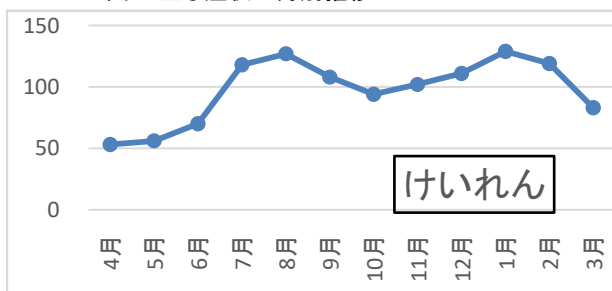


図11. けいれんの相談の月別推移

### ☆症状はいつから

いつから	件数	%
～1時間	35,419	48.5%
～6時間	14,420	19.7%
～12時間	6,872	9.4%
～24時間	5,874	8.0%
数日前から	7,700	10.5%
それ以前から	1,771	2.4%
不明	1,019	1.4%
合計	73,075	100.0%

\* 症状発現の時期は、～1時間が最も多く、\* 相談は受診に関してが77%を占めた  
半日以内が78%を占めた。

### ☆相談内容の分類

相談内容	件数	%
受診に関して	56,166	76.9%
家でのケアの方法	16,014	21.9%
薬について	4,218	5.8%
急診先の案内	4,137	5.7%
子どもの特徴の見方	5,825	8.0%
その他	498	0.7%
合計	86,858	100.0%

### ☆なぜ今電話

理由	件数	%
急に何かが起こった	31,768	43.5%
今、気がついた	5,589	7.6%
今、心配になった	32,763	44.8%
家人の勧め	25	0.0%
その他	272	0.4%
不明	2,658	3.6%
合計	73,075	100.0%

\* 心配になったが最も多く、急に何かが起こったも約4割を占めた。

### ☆子どもの状態の変化

状態の変化	件数	%
全身状態が悪化した	1,367	4.7%
症状が悪化、違う症状が出た	4,088	14.2%
全身状態が横ばい	14,297	49.7%
長引く	2,078	7.2%
わからない	3,303	11.5%
いつもと違う	3,661	12.7%
合計	28,794	100.0%

\* 全身状態は横ばいが約半数を占めた。状態悪化と捉えられる相談は計18.9%であった。

### ☆医療機関の受診(電話相談の症状に関する日中受診の有無)

受診歴有無	件数	%
受診歴あり	14,820	20.3%
受診歴なし	57,435	78.6%
不明	820	1.1%
合計	73,075	100.0%

\* 電話の前に日中医療機関を受診した例は2020年度は12.9%と激減したが、2022年度は20.3%と2019年度に近づいた。内科的症状が多く日中の受診患者が増加したことを反映したものと考えられた。

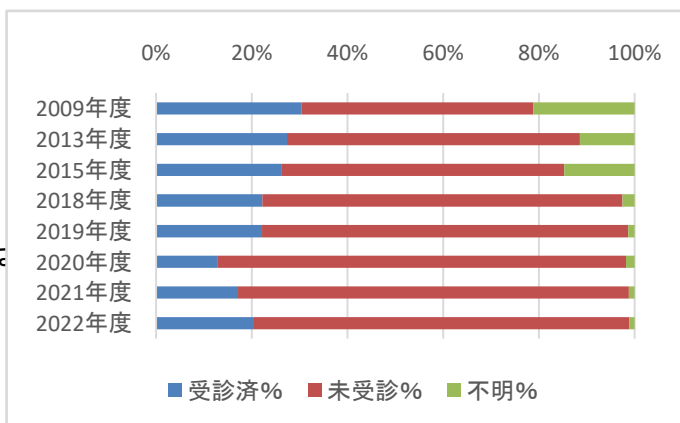


図12. 電話相談の症状に関する日中受診の有無の推移

### ☆対応

対応内容	件数	%
助言のみ	24,910	34.1%
昼間にかかりつけ医で受診	16,082	22.0%
何かあれば医療機関を受診	15,178	20.8%
これから医療機関を受診	13,305	18.2%
初期救急医療機関を紹介	2,476	3.4%
119番で救急車を呼ぶよう助言する	602	0.8%
不明	522	0.7%
合計	73,075	100.0%

\* 対応は助言のみが34.1%で、電話の時点で即受診の結論に至った相談は22.4%、うち救急車は0.8%であった。

\* 相談を終えた印象は相談員の主観だが、99.0%が「納得・ほぼ納得」で、「納得しない」29例であった。

### ☆電話相談を終えた印象

印象	件数	%
納得した	69,792	95.5%
ほぼ納得した	2,586	3.5%
あまり納得せず	128	0.2%
納得しない	29	0.0%
不明	540	0.7%
総計	73,075	100.0%

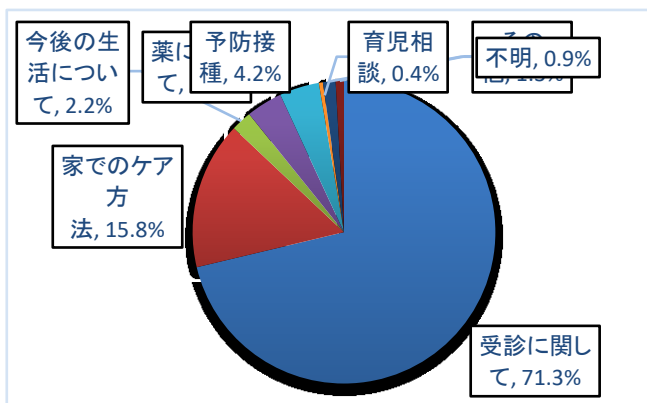
## ☆紹介機関名

紹介先	2022年度 件数	2022年度 %	2021年度 %
救急医療情報センター	7,311	10.0%	11.6%
中央診療所 小児科	2,965	4.1%	4.0%
中央診療所 耳鼻科	658	0.9%	0.9%
中央診療所 眼科	213	0.3%	0.3%
豊能広域こども急病センター	1,963	2.7%	2.9%
北河内夜間救急センター	1,372	1.9%	1.9%
堺市こども急病診療センター	1,548	2.1%	2.2%
救急安心センター(#7119)	177	0.2%	0.2%
その他の医療機関	5,488	7.5%	8.3%
合計	21,695	29.7%	32.3%
全体件数	73,075	100.0%	100.0%

\* 紹介医療機関の比率は昨年度とほぼ同様であった。

## ☆相談内容の分類

項目	件数	%
受診に関して	52,086	71.3%
家でのケア方法	11,515	15.8%
今後の生活について	1,600	2.2%
薬について	2,825	3.9%
予防接種	3,103	4.2%
育児相談	316	0.4%
その他	983	1.3%
不明	647	0.9%
合計	73,075	100.0%



## ☆受診についての保護者の考え

受診に関して	件数	%
受診せずに済ませたい	2,307	3.4%
どうするか考えたい	59,037	87.8%
受診したい	5,864	8.7%
合計	67,208	100.0%

\* 相談内容としては、受診に関する相談が7割を占め、次いで家でのケア方法が多いがわずかに15.8%であった。助言として「即受診」は2割であり、夜間は家庭内対応で様子を見ることを勧めている。相談員側の判断基準と家庭内ケアの重要性を知っていれば、電話相談のニーズが変化する可能性はある。

\* 受診の相談では、保護者が予め受診の有無について意向が強いわけではなく、相談してどうするか決めたいが87.8%を占めた。

## ☆地域別件数の推移

市町村	2022年度 件数	2022年度 %	2022年度 小児人口比	2021年度 小児人口比	2019年度 小児人口比
大阪市	21,060	28.8%	7.13	5.89	5.54
堺市	6,689	9.2%	5.92	5.16	5.09
池田市	933	1.3%	7.05	5.64	5.27
箕面市	1,157	1.6%	6.44	4.85	5.36
豊中市	4,416	6.0%	8.19	6.88	7.04
吹田市	4,011	5.5%	7.82	6.57	6.68
豊能町	59	0.1%	3.75	3.69	2.99
能勢町	23	0.0%	2.80	2.07	2.31
小計	10,599	14.5%	7.63	6.32	6.44
摂津市	847	1.2%	7.43	7.72	5.65
茨木市	2,917	4.0%	7.19	5.86	5.39
高槻市	2,399	3.3%	5.27	4.82	4.48
島本町	251	0.3%	5.72	6.41	5.45
小計	6,414	8.8%	6.30	5.63	5.01
枚方市	3,000	4.1%	5.78	4.64	5.49
寝屋川市	2,119	2.9%	8.18	6.19	6.45
守口市	1,395	1.9%	9.49	7.55	7.44
門真市	910	1.2%	6.42	5.21	5.24
大東市	918	1.3%	5.87	4.64	4.85
四條畷市	478	0.7%	6.06	4.87	5.63
交野市	691	0.9%	6.50	5.17	5.10
小計	9,511	13.0%	6.75	5.34	5.75
東大阪市	3,793	5.2%	6.42	5.19	5.59
八尾市	2,480	3.4%	7.21	6.61	5.89
柏原市	486	0.7%	5.60	5.46	5.99
小計	6,759	9.2%	6.62	5.69	5.73
松原市	760	1.0%	5.22	4.44	4.23
羽曳野市	717	1.0%	4.99	4.47	4.38
藤井寺市	444	0.6%	5.15	4.52	4.26
富田林市	652	0.9%	4.76	4.02	3.94
河内長野市	505	0.7%	4.32	3.83	4.21
大阪狭山市	467	0.6%	5.89	5.28	4.72
河南町	68	0.1%	3.64	2.73	2.99
太子町	74	0.1%	3.98	2.15	2.47
千早赤阪村	15	0.0%	3.15	3.57	2.52
小計	3,702	5.1%	4.93	4.27	4.17
和泉市	1,620	2.2%	5.83	4.95	4.85
泉大津市	569	0.8%	5.40	5.49	5.44
高石市	544	0.7%	7.15	5.99	5.52
岸和田市	1,525	2.1%	5.67	4.92	5.33
貝塚市	552	0.8%	4.21	3.27	4.07
泉佐野市	907	1.2%	7.00	5.53	6.33
泉南市	358	0.5%	4.01	3.87	4.22
阪南市	322	0.4%	4.70	4.13	4.72
忠岡町	85	0.1%	3.55	3.92	3.92
熊取町	396	0.5%	6.41	4.82	5.06
田尻町	72	0.1%	5.78	5.86	4.98
岬町	57	0.1%	3.64	3.45	2.81
小計	7,007	9.6%	5.56	4.78	5.03
他府県件数	277	0.4%	-	-	-
海外件数	1	0.0%	-	-	-
不明件数	1,056	1.4%	-	-	-
合計件数	73,075	100.0%	6.56	5.61	4.00

\* 全体の件数増加を受けて、小児人口比の数値は前年度およびコロナ禍以前の2019年度より増加した。

\* 豊能医療圏で利用率が高く、南河内・泉州医療圏は低い傾向は同じである。

\* 守口市・豊中市・寝屋川市が小児人口比百人比、8%の相談件数であった。

\* 2019年度と比較して1.5以上小児人口比が増加したのは大阪市・池田市・摂津市・茨木市・守口市であり、減少は、柏原市・泉大津市・泉南市・阪南市・忠岡町であった。

\* 小児人口比は2017年国勢調査による15歳未満の小児人口を用いて、百人当たりの件数を算出した。

## ☆新型コロナウイルス関連の相談 2020年1月～2023年3月分

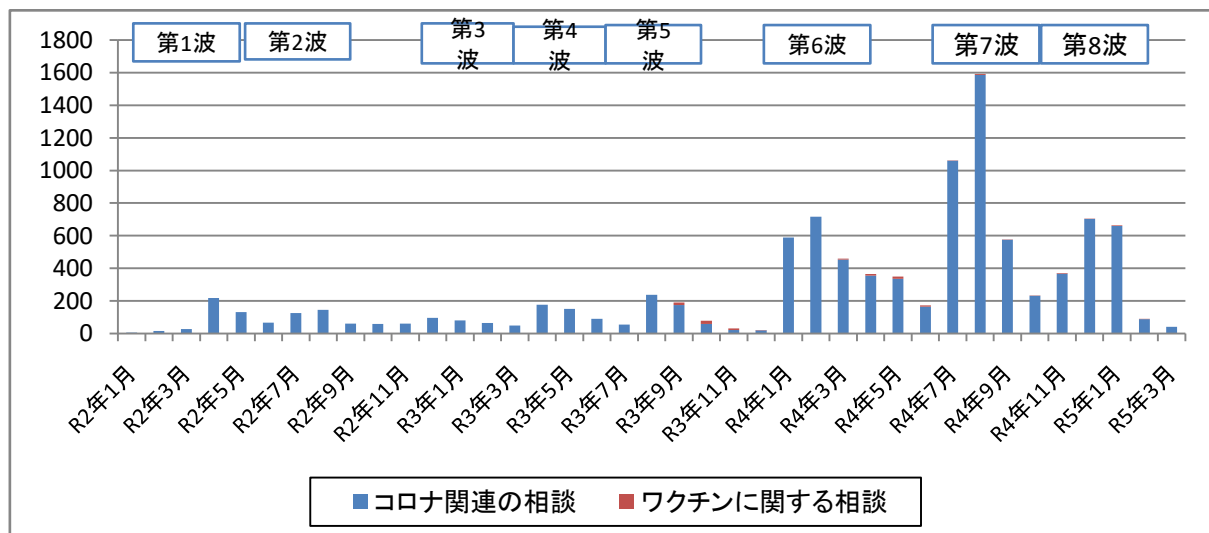
月	件数	コロナ/全体	全体の相談件数	2019年相談件数	今年/2019年度
2020年1月	5	0.1%	5,443	6,045	90.0%
2020年2月	15	0.3%	4,570	4,716	96.9%
2020年3月	27	0.7%	3,669	4,930	74.4%
2020年4月	217	7.0%	3,111	5,772	53.9%
2020年5月	132	4.2%	3,167	5,945	53.3%
2020年6月	66	2.0%	3,220	5,532	58.2%
2020年7月	126	3.4%	3,731	5,426	68.8%
2020年8月	145	3.8%	3,798	4,930	77.0%
2020年9月	60	1.8%	3,369	5,054	66.7%
2020年10月	58	1.4%	4,078	4,589	88.9%
2020年11月	60	1.5%	3,914	4,408	88.8%
2020年12月	97	2.6%	3,686	5,640	65.4%
2021年1月	81	2.3%	3,514	6,045	58.1%
2021年2月	64	1.8%	3,570	4,716	75.7%
2021年3月	50	1.1%	4,616	4,930	93.6%
2021年4月	176	3.2%	5,564	5,772	96.4%
2021年5月	151	2.6%	5,872	5,945	98.8%
2021年6月	91	1.6%	5,823	5,532	105.3%
2021年7月	55	1.0%	5,759	5,426	106.1%
2021年8月	237	4.9%	4,834	4,930	98.1%
2021年9月	190	4.4%	4,272	5,054	84.5%
2021年10月	78	1.6%	4,805	4,589	104.7%
2021年11月	32	0.7%	4,753	4,408	107.8%
2021年12月	19	0.4%	5,133	5,640	91.0%
2022年1月	588	10.9%	5,393	6,045	89.2%
2022年2月	717	15.9%	4,513	4,716	95.7%
2022年3月	459	9.9%	4,644	4,930	94.2%
2022年4月	365	6.7%	5,455	5,772	94.5%
2022年5月	349	5.9%	5,884	5,945	99.0%
2022年6月	172	3.0%	5,685	5,532	102.8%
2022年7月	1062	13.5%	7,859	5,426	144.8%
2022年8月	1592	22.4%	7,095	4,930	143.9%
2022年9月	578	9.7%	5,931	5,054	117.4%
2022年10月	233	4.0%	5,757	4,589	125.5%
2022年11月	371	6.6%	5,636	4,408	127.9%
2022年12月	705	11.4%	6,188	5,640	109.7%
2023年1月	663	10.1%	6,534	6,045	108.1%
2023年2月	90	1.6%	5,586	4,716	118.4%
2023年3月	41	0.8%	5,465	4,930	110.9%

各波を以下の期間として集計した。

- 第1波 2020年3-5月
- 第2波 2020年7-9月
- 第3波 2020年12-2021年2月
- 第4波 2021年4-6月
- 第5波 2021年7-9月
- 第6波 2022年1-3月
- 第7波 2022年7-9月
- 第8波 2022年10月-12月

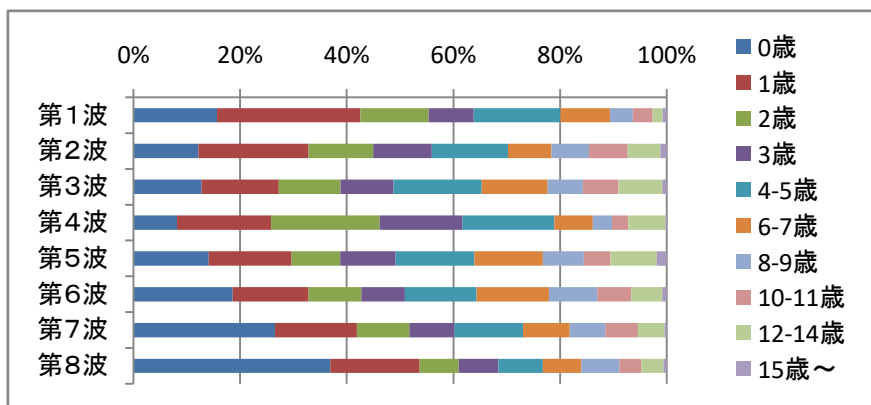
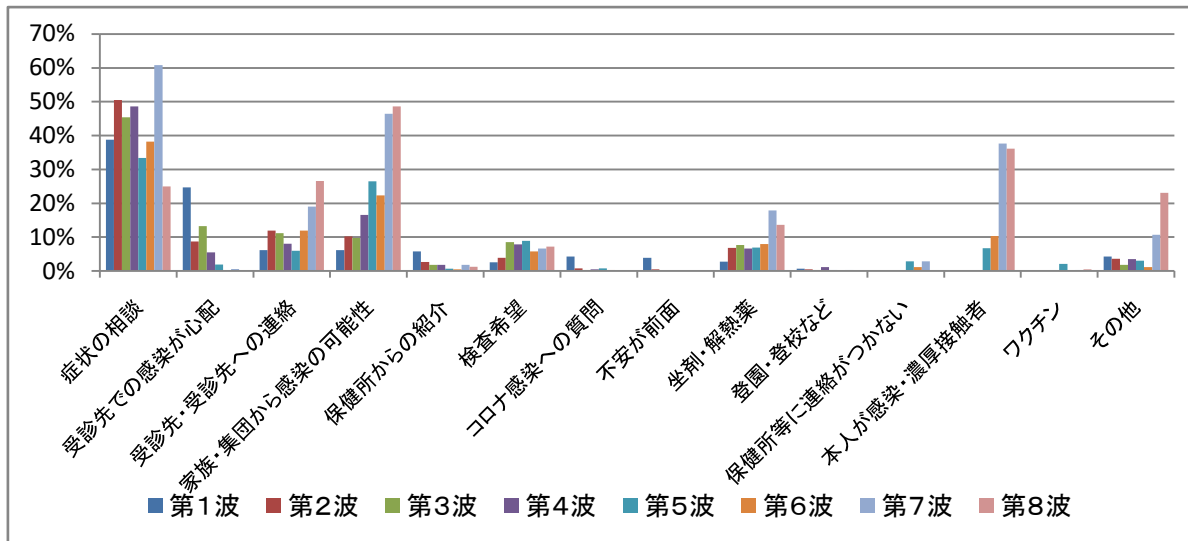
\* 第1波は相談件数は比較的多かったが、相談の4分の1は「受診先の感染が心配」など、実際の感染ではなく、「心配」が原因の相談が多かった。全体の相談件数が前年度の53%まで減少し、相対的にコロナ関連の相談比率が増えた。

\* 第2波・第3波は件数は多くなく、第4波でやや増加、第5波はさらに増え、第6波で増加した。さらに、第7波では電話件数は著明に増加した。第8波では第7波に比べて少ないが、第6波と同じ程度である。



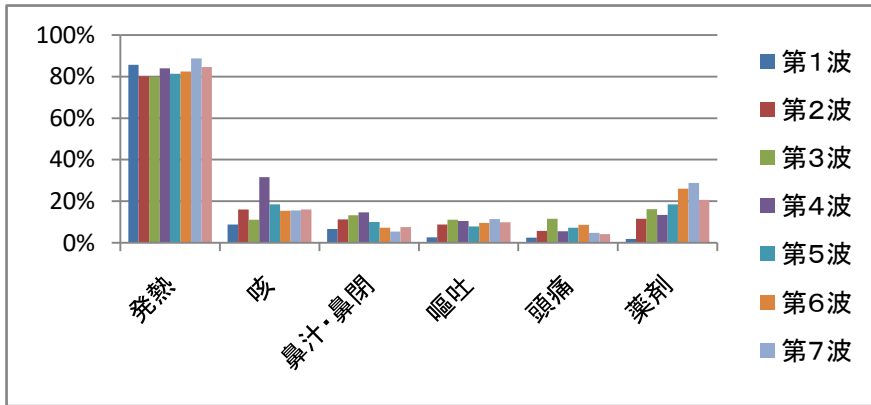
**\* 相談内容**

第4波以後は家族や周囲の感染を背景にした相談が増え、第6波は相談件数が全体の1割以上を占めるなど増加し、本人が感染または濃厚接触者からの相談が増加した。第7波ではその傾向が強まり、第8波では受診先を知りたい・その他が多かった。



**\* 年齢**

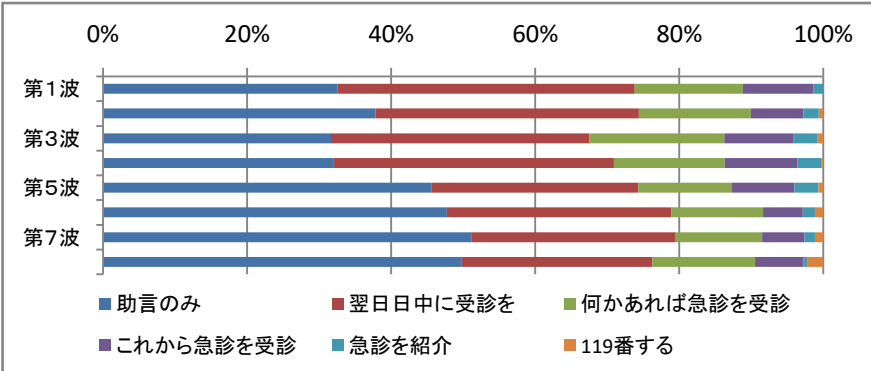
新型コロナ感染関連の相談の子ども年齢は全体と比較し、0-1歳児が少なく、6歳以上の相談が多かったが、第7・第8波では0歳児の相談が増加していた。



**\* 症状**

いずれの波も、相談の約8割が発熱であり、逆に発熱があればコロナ感染を心配する声も多かった。

第4波では咳の相談が多く、第6波以後は自宅対応のために解熱剤など家庭での処置の相談が多くなった。



**\* 対応**

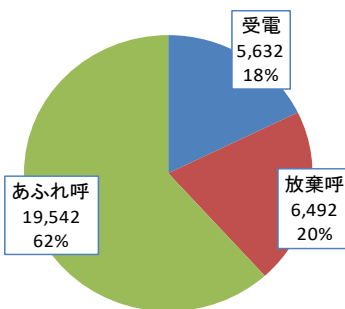
コロナ感染に関しては緊急性が疑われる場合は少なく、これから急診受診+急診の紹介+119番は計20%に満たなかった。



## ☆話中電話の相談 2023年2月1日～2月28日

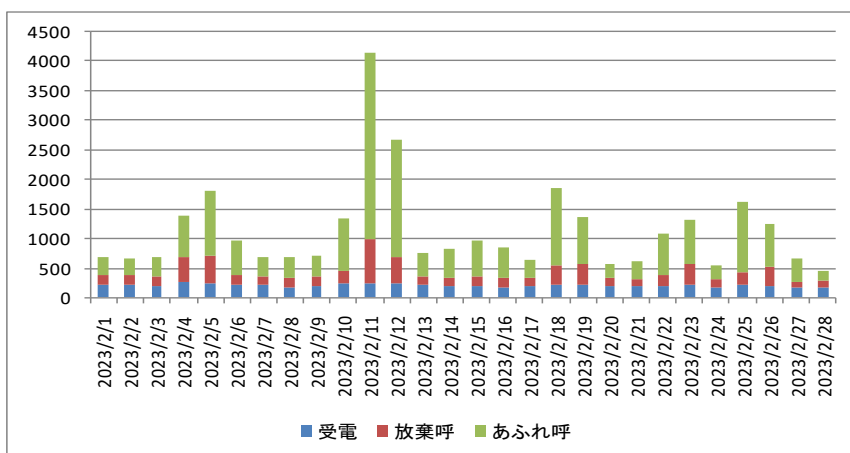
迷惑電話・特殊詐欺のフィルタリングサービス「トビラフォンBiz」光回線用を導入し、着信・通話履歴を用いて話中電話の件数把握を試みた。

	着信件数	話中	電話番号数
受電	5,632	-	12,126
放棄呼	6,492	26,034	
あふれ呼	19,542		-
合計	31,666	26,034	12,126

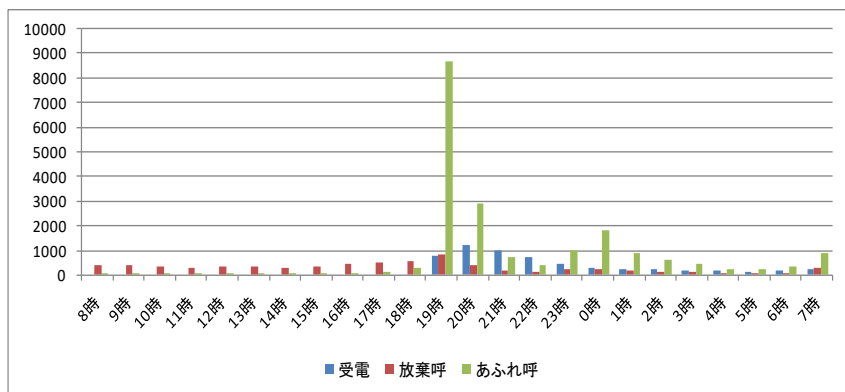


2月1か月間の着信件数のうち、つながらない話中の電話は82%に達し、最後に諦めた放棄呼は20%であった。電話番号数のうち会話ができた受電は46.4%と半分を下回った。

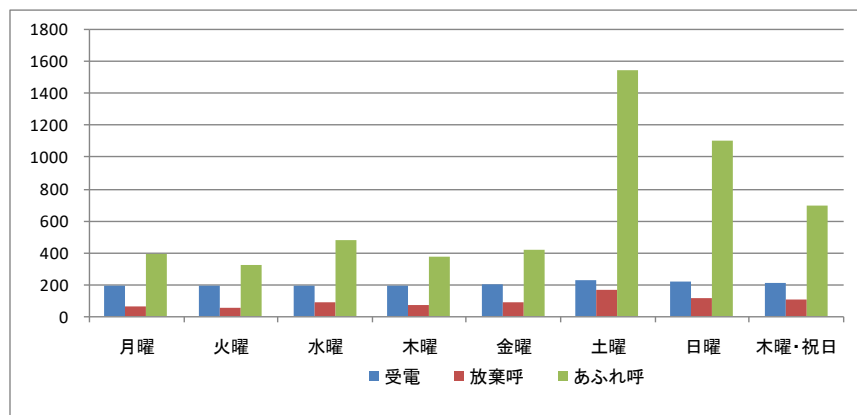
放棄呼は日差と時間帯による差が大きく、電話は集中するため、受電の限界を超えるとあふれ呼も放棄呼も増えていた。



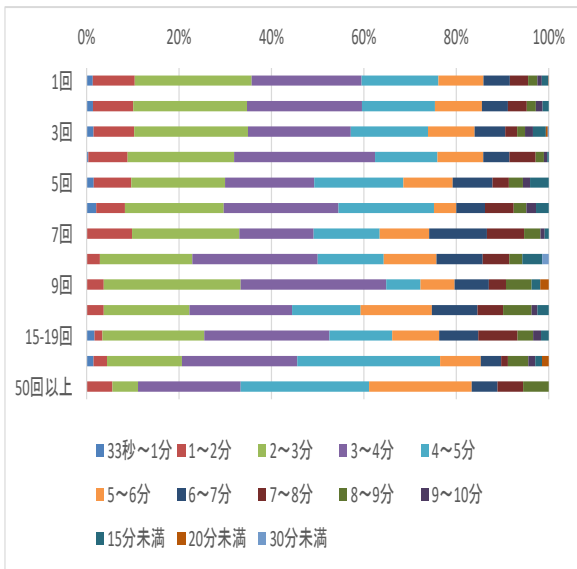
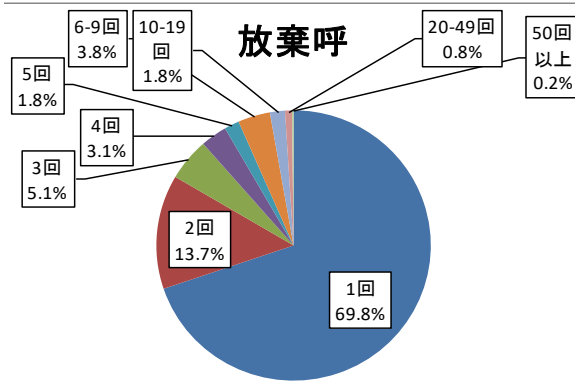
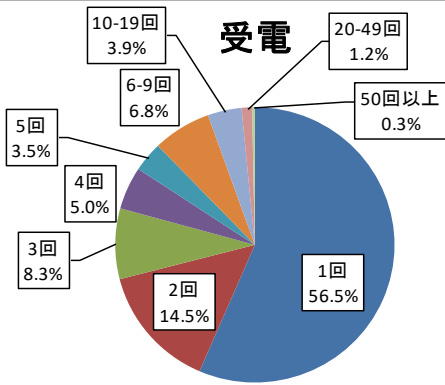
日々のデータから  
2月11日12日の祝日土日には、放棄呼が多くなりあふれ呼は著増していた。



時間帯では、相談開始の19時台に集中して多く、次に20時台が多かった。その他回線数が減少する時間帯もあふれ呼が増加した。



土曜と日曜祝日に放棄呼とあふれ呼が多く受電数は曜日による差が少なかった。



1回目の電話でつながる場合も多く、  
受電は3回までにつながる場合が4分の3  
以上を占めた。

放棄呼も1回が最も多かった。

つながるまでの電話回数とつながった時の  
通話時間をクロス集計すると、回数が多い  
方が通話時間がやや長い傾向があった。